

保育実習Ⅰ（施設）学内実習（代替案）

	教科目の教授内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
1	1-(2)施設の役割と機能 5-(1)保育士の業務内容 5-(2)職員間の役割分担や連携 5-(3)保育士の役割と職業倫理	実習施設の理解 実習の目的、目標の設定 実習施設の多職種の把握	実習の流れと評価方法を理解する。 学習内容の詳細を理解し、学習の目標を設定する。 実習施設において保育士以外にどのような職種が働いているかを理解し、保育士の役割・職務を理解する。 保育士倫理綱領を理解する。	【学習方法】 ・内容に即したPowerPoint ・施設実習系のDVD等の視聴 ・レポート課題 【映像教材の例】 施設実習1日の軸とした施設実習の概要の分かる動画が望ましい。以下の例を参照のこと。 ・児童養護施設における施設実習（全2巻）：ジャパン情報通信センター 監修：こども教育宝仙大学 こども教育学部 准教授 藤田 恭介 ・施設実習の予備知識：株式会社新宿スタジオ 監修・指導：東洋英和女子学院大学 大嶋恭二 【レポート課題】 デイリープログラムの内容を捉えられる項目や、保育士倫理綱領の穴埋め、学内実習の目標設定などを含む内容が望ましい。	2
2	1-(2)施設の役割と機能 5-(1)保育士の業務内容 5-(2)職員間の役割分担や連携 5-(3)保育士の役割と職業倫理	施設の理解 (施設職員(管理者相当)による講話) ※養護系と障害系の2系統で、各1時間程度。	施設の概要・機能を聞き、施設の役割を理解する。 保育士の役割と多職種の役割を聞き、保育士の職務内容を理解する。 例：施設外(要対協、児童/民生委員)ともかかわってやっている例もある(地域差はあるが)。児童相談所の職員から概論、保健師との連携、保育士としてつながっている例を示すのも良い。 ※施設内の連携も大切にすることが望ましい。 施設職員としての職業倫理を聞き、保育士の職業倫理について理解を深める。施設職員による講話(管理者相当)	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話、あるいは施設に協力を依頼して撮影・作成していただき作成した動画教材の視聴 ・レポート課題(※ゲストスピーカーの講話をふりかえることができる内容を提示する。分量はともかく記録を書かせることを重視することが望ましい。) 【参考資料】 「保育者養成協議会東北ブロックガイドラインVer.4」にも参考となるレポートフォーマットがあるので参照のこと。	2
3	3-(3)子どもの活動と環境	子ども・利用者の生活	子ども・利用者の日々の生活や活動(学習活動、余暇活動等)について理解し、その環境構成を理解する。	【学習方法】 ・事例学習 ・ゲストスピーカーによる講話 【ゲストスピーカーの活用例】 近隣施設の現状に合わせた内容について、生活(例えば寝食等)の環境の実際の姿を理解できるように講話内容を構成いただくように依頼する等が考えられる。 【理解度チェック課題】 講話を聴講した後、施設的生活環境に関する実際の姿を理解できるかをチェックすることができる課題を提示することが望ましい。 例えば、理解項目を整理し5段階チェックのような形をとった上で、学生の理解が及んでいない項目に対しフォローする等の対応も考えられる。	2
4	1-(1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 2-(2)個々の状態に応じた援助や関わり 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応	生活と保育士のかかわり① (乳児院・児童養護施設)	施設における子どもの生活の流れを理解し、そこに関わる保育士の援助について理解する。	【学習方法】 ・施設実習系のDVD等の視聴・事例提示 ・レポート課題 ※特定の施設について学習を深める、あるいは施設種別ごとに学ぶなどの方法が考えられる。 【映像教材の例】 教科目の教授内容に基づいて選定する。以下の例を参照のこと。 ・保育者へのあゆみ(全2巻のうち第1巻)：株式会社新宿スタジオ 監修：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 【レポート課題】 入所時の子ども、利用者・入所者と保育士の関わりに焦点化して、レポートを記述させることが望ましい。 【参考】 YouTube等を活用し、学生に関連する動画を探索しレビューする課題を出し発表させるなどの方法も考えられる。	4

	教科目の教授内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
5	1-(1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり 2-(2)個々の状態に応じた援助や関わり 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応	生活と保育士のかかわり②(障害者支援施設)	施設における利用者の生活の仕方や基本的な生活習慣について理解し、保育士の援助や関わりについて理解する。	【学習方法】 ・施設実習系のDVD等の視聴・事例提示 ・レポート課題 ※特定の施設について学習を深める、あるいは施設種別ごとに学ぶなどの方法が考えられる。 【映像教材の例】 知的障害者施設の一日：株式会社アローウィン 監修：立松英子 東京福祉大学大学院教育学研究科教授 【レポート課題】 入所時の子ども、利用者・入所者と保育士の関わりに焦点化してレポートを記述させることが望ましい。 【参考】 YouTube等を活用し、学生に関連する動画を探索しレビューする課題を出し発表させるなどの方法も考えられる。	4
6	3-(4)健康管理、安全対策の理解	日常的な健康管理及び感染症対策演習 ※施設における感染症対策のDVD等の視聴・講話／生活の中での感染症対策	・感染症対策に必要な技術を演習を通して身に付ける。 ・健康診断、避難訓練、手洗い、施設に入るにあたっての注意事項。 ※児童養護系と障害者支援系に分ける。	【学習方法】 ・DVD視聴・事例学習 ・ゲストスピーカーによる講話(現場職員) ・レポート課題 【ゲストスピーカーの活用例】 施設における日常の健康管理・安全対策・感染症対策等について、理解を図れる内容を構成いただくよう依頼する等が考えられる。 【理解度チェック課題】 講話を聴講した後、検温や検便等を含めた日常の健康管理や感染症対策について理解度がチェックできる課題を提示すること望ましい。 例えば、理解項目を整理し5段階チェックのような形をとった上で、学生の理解が及んでいない項目に対しフォローする等の対応も考えられる。	4
7	3-(1)計画に基づく活動や援助 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	施設種別ごとの長期(年間)の支援計画の理解 (※養育支援計画、自立支援計画、個別支援計画は見せてもらえないかもしれないので。)	施設種別ごとの支援計画について、施設サービスを利用している子ども・利用者の意向や適性その他の事情を踏まえて作成されることを理解する。 子ども・利用者を見る視点や記録の書き方を学ぶ。 支援計画の視点や計画書作成の留意点について学ぶ。	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話(現場職員)／支援計画の提示(養成校教員) ・レポート課題 ※ゲストスピーカーは、施設の実習担当者が望ましい。 ※支援計画の内容自体は難しいと思われるが、可能であれば支援計画のフォーマット等だけでも見せていただけるよう交渉してみることも有効と考えられる。	2
8	2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	施設職員による講話(実習担当者相当)	・実習日誌の様式に即した記録のポイント。 ・見るべき視点の提示。	【学習方法】 ・ゲストスピーカーによる講話(現場職員) ・レポート課題 ※ゲストスピーカーは、施設の実習担当者が望ましい。 ※ゲストスピーカーの講話内容は、現場で実際に行われている日々の記録の種類等についてお話しいただき、見るべき視点の理解につなげていくことが望ましい。	2
9	2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	実習日誌の記入	DVDを視聴して実際に日誌を記入する。	【学習方法】 ・DVD(映画等)視聴と日誌の記入、提出 【視聴中の記録のポイント】 日常場面、特定の場面にこだわらず、子どもの姿に対する気付きを拾い上げることを意識させ、ディスカッションに活かすことのできる材料を集めさせるように取り組ませることが望ましい。 【映像教材の例】 ・児童養護施設における施設実習(全2巻)：ジャパン情報通信センター 監修：こども教育宝仙大学 こども教育学部 准教授 藤田 恭介 ・施設実習の予備知識：株式会社新宿スタジオ 監修・指導：東洋英和女子学院大学 大嶋 恭二 ・知的障害者施設の一日：株式会社アローウィン 監修：立松英子 東京福祉大学大学院教育学研究科教授 ・保育者へのあゆみ(全2巻のうち第1巻)：株式会社新宿スタジオ 監修：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 ・「隣の人」・「いただきます」等の映画	8
10	2-(1)子どもの観察とその記録 3-(1)計画に基づく活動や援助 4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	実習日誌を基にディスカッション	記入した日誌をもとに、子どもの姿についての気づき等についてグループディスカッションを行い、それぞれの日誌の内容や書き方、捉え方等について共有し、よりよい日誌の記入の仕方について検討する。	【学習方法】 ・1グループ5名程度のディスカッション(子どもの姿についての気づきの共有・多様な気づきの理解) ・講義(気づきを記述する方法について) ・日誌の再提出	6

	教科目の教授内容	テーマ	内容	教授(授業)方法	実時間 (目安)
11	3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境	指導案(余暇活動等)の作成(集団)	施設の子ども・利用者を対象(5名~10名)としたレクリエーションの指導案(30分~40分程度)を作成する。 ※指導案については、集団援助技術を学ぶという視点から、日常の余暇活動・食事場面等も考えられる。	【学習方法】 ・指導案の作成 ※乳児院、児童養護、医療型障害児入所施設、福祉型障害児入所施設等から選択し、具体的なイメージをもって指導案を作成することが望ましい。 ※種別の選択に関しては、養成校で検討し判断する。	4
12	3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境	指導案(余暇活動等)の実践	学生を子ども・利用者に見立ててロールプレイを行う。	【学習方法】 ・模擬保育 1グループ10名程度で保育士役1名、子ども・利用者役5名、観察者4名程度で保育実践 ※この時間のみ対面での実施が必要となる。	12
13	3-(1)計画に基づく活動や援助 3-(2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 3-(3)子どもの活動と環境 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	指導案実践の反省・評価	実践した指導案を振り返りながら、保育士の配慮点、新たな気づき、子ども・利用者理解を深める。 子ども・利用者役を行った学生からの意見を聞き、さらに子ども・利用者の理解と保育士の配慮事項を考える。	【学習方法】 ・模擬保育を通してのグループディスカッション 1グループ10名程度で保育士役1名、子ども・利用者役5名、観察者4名でディスカッション ・講評	12
14	4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	支援計画の反省・考察	ソーシャルワークの一連の流れを踏まえた社会的擁護における保育士の支援について学ぶ。	【学習方法】 ・インテーク、アセスメント、支援計画(作成・修正)の一連の流れを、子ども・利用者の実態やかかわりを基に、全体像を把握する。 ※施設実習担当教員だけでなく、社会福祉にかかわる教員と連携し取り組むことが望ましい。場合によっては、ゲストスピーカーを依頼することも視野に入れる。	2
15	4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	各種別ごとの支援計画の理解	施設種別ごとの支援計画について、施設サービスを利用している子ども・利用者の意向や適性その他の事情を踏まえて作成されることを理解する。 支援計画作成の具体的な手順と作成ポイントを学ぶ。 支援計画の視点や計画書作成の留意点について学ぶ。	【学習方法】 ・ゲストスピーカー講話 【ゲストスピーカー活用例】 大きく養護系・障害系の職員に実際使用している支援計画等の書式を提示していただく。また可能な範囲で事例を含めた作成手順や記入時の留意点について提示していただく。 【教材例】 児童相談所-児童養護施設で用いられる「子ども・若者ケアプラン(自立支援計画)」を用いると、同一書式内で虐待、虐待、障害、重複等の多様なケースを扱えるため、ケースによる支援計画の違いが分かりやすいかもしれません。 厚生労働省参考URL https://www.mhlw.go.jp/content/000348508.pdf	4
16	4-(1)支援計画の理解と活用 4-(2)記録に基づく省察・自己評価	支援計画のディスカッション	支援計画を基にグループディスカッションを行い、新たな気づき、子ども・利用者理解を深める。	【学習方法】 ・グループディスカッション(1グループ5名程度) ※可能であれば、前回の講話でお話いただいたゲストスピーカーにも継続して参加いただくことが望ましい。 ※ケースの印象、問題意識と比較して意見しても良い。 【教材例】 ・支援計画の基本的な書式は、「子ども・若者ケアプラン」や、社会的養護等のテキストに記載されているものを用いながら行うのも良い。また卒業生等が作成した実習報告書を活用するのも良いが、個人情報の取り扱いには十分留意する。	8
17	5-(3)保育士の役割と職業倫理	施設保育士の役割	施設で働く保育士に求められる資質、職業倫理について考える。 児童・利用者の権利擁護について考える。	【学習方法】 ・レポート作成に向けたグループワーク ・レポート課題 ※例えば、理解項目を整理し5段階チェックのような形をとる等が考えられる。 ※施設の社会的役割や、そこで働く保育士の意義について考えさせることも検討できると良い。 【教材例】各施設が示している職員の倫理綱領を活用するのも良い。	2
					80